

2025 年度 九州国際大学

〔前期〕 一般選抜試験問題（2月1日）

国 語

問題用紙（1～21 ページ） 試験時間（60 分）

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験者は、すべて試験監督者の指示に従いなさい。
3. 試験開始後、問題冊子の印刷不鮮明、落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. 「解答用紙」は問題の最後に綴じ込んであります。解答用紙を**問題冊子から切り離し、必ず座席番号を記入**しなさい。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等を解答用紙に書いてはいけません。
5. 訂正する場合は、プラスチック消しゴム等で誤りをきれいに消しなさい。
6. 他の受験者の迷惑になるような行為（物品の貸し借り、音読等）をしてはいけません。
7. 不正行為があれば直ちに退場を命じます。
8. 試験終了後、問題冊子を持ち帰りなさい。
9. **試験が終わるまで、試験室を出てはいけません。**

一 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

自殺の地域研究や自殺対策にかかわる世界では、ほぼ定着した説がいくつかある。そのうちのひとつが、自殺予防には「絆」や「人とのつながり」がもつとも重要な要素のひとつであり、この点を強化する必要がある、という説である。コミュニティにおける住民たちの「強い絆」こそが自殺の危険をカンワ①しているとするこの説に、もちろん私自身も共感し、支持していた。

しかし、自殺希少地域である海部町かいふちょう（現在の徳島県海陽町）に入り、その後自殺多発地域A町にも対象を広げて調査を進めているうち、何かがおかしいと思うようになってきた。

住民たちに「この町の自慢は何ですか」などとざっくりした質問を投げかけると、次のような答えが返ってくる。

ここは自然が豊かだ、空気がきれいだ、水がおいしい、近所の人が親切だ、互いに助け合って暮らしている。

そして私が東京からやって来たことを知ると、こう付け加える人がいる。都会は怖いねえ、隣に住む人の顔も知らないというじゃないか。

そこが自殺希少地域であれ多発地域であれ、面白いほどに、住民たちの答えの内容は似通っている。特に強調されるのが、地域の助け合い、すなわち「絆」である。東京のような大都会と比較すれば、地方においては自殺希少地域と多発地域の別なく、「絆」や「人とのつながり」は大いにある。

私が通説に疑問をもったきっかけは、彼らのこの答えだった。

彼らが言うように、自殺希少地域にも多発地域にも同じように「絆」や「つながり」があるのだとすれば、それらは必ずしも自殺を抑制する要素として機能していないという理屈になる。私は人々が「絆」「つながり」と呼んでいるものの本質やそれに対する人々の意識に、地域によって差異があるのではないかと考え始めた。

試行錯誤しながら研究を進めた結果、自殺希少地域である海部町では、隣人とは頻繁な接触がありコミュニケーションが保たれているものの、必要十分な援助を行う以外は淡白なつきあいが維持されている様子が窺えた。

対する自殺多発地域A町では、繋がり強い人間関係と相互扶助が定着しており、身内同士の結束が強い一方で、外に向かつては排他的であることがわかった。二つのコミュニティを比較したところ、キンミツな絆で結ばれたA町のほうがむしろ住民の悩みや問題が開示されにくく、援助希求（助けを求める意思や行動）が抑制されるという関係が明らかになった。

つまり、二つの地域の住民は同じように「絆」や「助け合い」という言葉を口にしてはいたが、その本質には大きな差異があったのである。

このことを通して私は、通説の功罪について考えるようになった。

人との絆が自殺対策における重要な鍵であるとする主張自体は、まったく間違っていない。私自身もまた、かつてはこの通説をよく引用していた。ただし今ふり返って思うのは、その言葉を引用するだけであたかも何かを伝えた気になって安心してしまい、X してはいなかったかということである。よりこまやかに内容を検討し、さまざまな場面に当てはめて検証していくという作業を、かつての私は怠っていた。

通説にはこれを用いる人々の思考を鈍らせる副作用がある。それが耳触りのよいメッセージである場合にはさらに用心すべきであることを、肝に銘じておきたいと思っている。

通説ということに関連して、もう一点ここで問題提起したいことがある。

いじめにより、ある中学生が自殺した事件をきっかけに、全国で教育現場で自殺対策に関する白熱した議論が行われている。時々耳にするようになったのが、「命を大切にする」という教育の必要性についてである。現代の子どもたちは命を粗末にする傾

向があるため、つらい目に遭ったときにも簡単に命を手放さない人間になるよう、幼い頃から命の大切さについて教えようという趣旨である。目新しい理念ではないが、いままたその重要性を訴える声が高まっている。

私はこの議論の盛り上がり、⁽²⁾なんとなく落ち着かない気分になる。本当にそうなのだろうか。だとすれば、あの少年は、命を粗末に考えていたから自殺を選んだということになるのだろうか。「命を大切に」教育がいまよりも普及していれば、あの少年は死なずにすんだのだろうか。何度も

Y

してみたが、最後はいつも「いや、問題の核心はそこではない」という答えに行き着く。

誤解のないように断っておきたいのだが、私は、「命を大切に」という教育が重要であるとする意見に異を唱えているわけではない。心から賛同している。ここで私が問いたいのは、あの少年のようなケースに対し、「命を大切にしよう」という呼びかけがどのような効果をもたらして自殺の危険を抑止するのか、シミュレーションを行った上で提言されているのだろうか、という点である。

A、かつての私のように、あたかも大層なメッセージを伝えたような気になって安心し、その実にも届いてはいないという事態にもなりかねない。ここにもやはり、通説や常套句じょうとうくを用いる人が陥りやすい思考停止が起きているような気がしてならない。

海部町とその両隣に接する町を比較した場合、海部町の住民幸福度は三町の中でもっとも低い。つまり、「幸せ」と感じている人の比率がもっとも小さい。

住民幸福度に関するそれまでの私のバクゼン^(c)とした考えは、自殺の少ない地域では幸せな人が多く、自殺の多い地域では不幸な人が多い——端的に言ってしまうえばそういうことだった。私自身の考えというよりもこのことはある種の通説になって

いた。この通説を当てはめるとすれば、自殺率が突出して低い海部町の住民幸福度は、これら三町の中でも突出して高くなければならないことになるが、現実には通説と真逆の結果が出ている。

分析結果を見ると、「幸せ」と感じている人の比率は海部町が三町の中でもっとも低い一方で、「幸せでも不幸でもない」と感じている人の比率はもっとも高い。また、「不幸せ」と感じている人の比率は三町中もっとも低かった。

海部町とその他の地域を対象に行ってきた一連の調査では、Z をくつがえされることがたびたびあった。そんなはずがないと思ったり、非常に意外だったりする事柄に出会うたび、それまで思ってもいなかった新たな知見に目を向けることになった。自分の予想と違った分析結果は、私が未だ気づいていない何かを教えてくださいようとしている。

「不幸せ」という状況に陥りたくない人は多いだろうが、では「幸せ」ならよいのかというと、考えようによってはさほど結構な状況でもないのかもしれない。「幸せでも不幸せでもない」という状況にとどまっていれば、少なくとも幸せな状態から転落する不安におびえることもない。

幸福感というのは客観的な指標ではなく、その人の極めて主観的なカンネン^dであり、同時にそれは、相対的な評価⁽³⁾でもある。相対的評価という言葉の意味であるが、人は通常、自分が幸福かどうかを判断するときになんらかの「物差し」を使う。幸せというものはこれこれの条件が満たされている場合を指す、といったバクゼンとした基準が人それぞれにあり、これに当てはまっているかどうかを自己判断する。世間や他者と比較して自分を測るという行為であり、つまり、比較対照する世間や他者の状況に応じて自分の幸福度もまた上がり下がりする。このように考えていくと、「幸せでも不幸せでもない」状態とは、その判断基準をあちこちに動かされることなく、案外のどかな気分でいられる場ともいえるかもしれないのである。

B、「不幸でない」ことに、より重要な意味があるとも感じる。「幸せであること」より「不幸でないこと」が重要と、ま

るで禅問答のようでもあるが、海部町コミュニティが心がけてきた危機管理術では、「大変幸福というわけにはいかないかもしれないが、決して不幸ではない」という弾力性の高い範囲設定があり、その範囲からはみ出る人―つまり、極端に不幸を感じる人を作らないようにしているようにも見える。

この考えを海部町のある男性に話したところ、彼は「そこそこでええわ、と思ってしまふ。ほやからこの町には大して立身出世するもんがおらん」と嘆いた。もちろんいいわけなどない、現実には大勢の人が立派に出世しているのだが、彼の言わんとすることは理解できる気がする。私も薄々気づいていたのだが、海部町の人々には執着心というものがあまり感じられない。

もうひとつ、この調査結果によって気づかされた重要なこと、しかも極めて当たり前のことがある。住民の現時点での幸福度を測っても、将来起きるかもしれない自殺への傾きは予測できないという点である。

現時点では幸せでも、この先、病苦や経済問題のような思いもかけない困難にソウグウするかどうか、それは誰にもわからない。そうした困難な局面で無意識に発動される思考傾向や行動様式が、日頃の幸福感よりもよほど重要であると私は思っている。言い換えれば、「幸せ」であることが必ずしも大切なのではなく、なんらかの理由により幸せを感じられなくなつたときの対処の仕方こそ肝心なのである。

(岡檀『生き心地の良い町―この自殺率の低さには理由がある』)

※原文を一部改変した。

問(一) 二重傍線部③、④、⑤のカタカナを漢字に直し、解答欄に直接書きなさい。解答番号は①が、②が、③が

③、④が、⑤。

問(二) A・Bに入る語として最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号はAが、Bが

Bが⑦。

ア したがって

イ さもなければ

ウ しかし

エ 例えば

オ さらにいえば

問(三) X・Y・Zに入る語として最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号はXが

⑧、Yが⑨、Zが⑩。

ア 既成概念 イ 四苦八苦 ウ 思考停止 エ 温厚篤実 オ 議論百出 カ 自問自答

問④ 傍線部①「何かがおかしいと思うようになってきた」の説明として最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。解答番

号は 11。

ア この町の自慢は「絆」や「人とのつながり」以外にも他にもあると疑問に感じるようになってきた。

イ 大都会と田舎の違いとして、「絆」や「人とのつながり」が大いにあることについて疑問に感じるようになってきた。

ウ 「絆」や「人とのつながり」が必ずしも自殺防止に役立っているわけではないと疑問に感じるようになってきた。

エ 「絆」や「人とのつながり」を重要な要素とする通説と異なる調査結果に誤りがあるのではないかと疑問に感じるようになってきた。

オ 東京から来た者の感覚からすると、田舎の人々が「絆」や「人とのつながり」の重要な意味を理解していないと疑問に感じるようになってきた。

問(五) 傍線部(2)「なんとなく落ち着かない気分になる」の説明として最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は

12。

ア 自殺対策の「命を大切にする」教育を必要とする一般的な考えに対して否定的な意見を持っている。

イ 自殺をしてしまった中学生が思考停止に陥ってしまったのではないかと、教育現場の対処について疑問に感じている。

ウ 全国の実地現場の自殺対策に関する議論が白熱し過ぎているため、自殺した中学生の気持ちについてシミュレートしたうえで自殺防止対策を提言すべきであると考えている。

エ 自殺対策の「命を大切にする」教育が自殺防止にどのような効果があるのか本当に検証されているか疑問に感じている。

オ 自殺対策の「命を大切にする」教育をより普及させるために、その効果についてシミュレートしたうえで自殺防止対策を提言すべきであると考えている。

問(六) 傍線部(3)「相対的な評価でもある」とあるが、それは自己の幸福感をどのように評価することか。二十五字以上三十五字

以内で説明しなさい。解答番号は 13。

問七) 本文の内容に関する説明として適当ではないものを次の中から選びなさい。 解答番号は ⑭。

ア 自殺希少地域と多発地域の住民は「絆」や「助け合い」という言葉を同様に用いているが、その言葉の本質には大きな違いがあった。

イ 通説には、これを引用した人々が耳触りのよいメッセージに安心してしまい思考を鈍らせる副作用があるため、通説を扱う際には注意が必要である。

ウ 自殺率が低い海部町の住民幸福度は、通説によれば比較されている他の町の中でも高くなければならないが、現実には通説と異なる結果が出ている。

エ 「幸せでも不幸せでもない」住民が多い海部町では、住民に執着心があまり感じられないため立派に出世する人がいない。

オ 突然訪れる病気や貧困のような苦難に対処する思考傾向や行動様式が、日常生活の幸福感よりも大切である。

問(八) 本文の読後感を話し合っている五人の高校生の発言を次に示す。このうち、本文の内容とは合わない発言を一つ選びなさい。

い。解答番号は 15。

ア 世の中で一般的に正しいとされている考え方を鵜呑みにしてはいけないんだね。

イ 「絆」って言葉はすごく好きだけど、この言葉は自殺抑制に効果がないので、自殺対策にこの言葉を使ってはいけないんだね。

ウ 予想と異なった結果になったときは、何か見落としがあるかもしれないから、物事を深く考える良い機会でもあるんだね。

エ 「幸せ」なことが良いと思っていただけ、「幸せ」だと突然「不幸せ」になるかもしれないんだね。

オ 「幸せ」じゃなくなったときに、何をするのかは、「幸せ」でいることよりも大切なんだね。

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。なお、1 26 は設問の都合で付けた段落番号である。

1 勉強したい、と思う。 A 、まず、学校へ行くことを考える。学校の生徒のことではない。いい年をした大人が、である。こどもの手が離れて主婦に時間ができた、もう一度勉強をやりたい。ついては、大学の聴講生にしていただけなのか、という相談をもって母校を訪れる。実際の行動には移さないまでも、そうしたいと思っている人はたくさんいるらしい。

2 カティ^aの主婦だけのことではない。新しいことをするのだったら、学校がいちばん。ネンレイ^b、性別に関係なくそう考える。学ぶには、まず教えてくれる人が必要だ。これまでみんなそう思ってきた。学校は教える人と本を用意して待っている。そこへ行くのが正統的だ、となるのである。

3 たしかに、学校教育を受けた人たちは社会で求める知識がある程度身につけている。世の中に知識を必要とする職業が多くなるにつれて、学校が重視されるようになるのはトウゼン^cであろう。

4 いまの社会は、つよい学校信仰ともいふべきものをもっている。全国の中学生の九十四パーセントまでが高校へ進学している。高校ぐらい出ておかなければ……と言う。

5 B 、学校の生徒は、先生と教科書にひっぱられて勉強する。自学自習ということばこそあるけれども、独力で知識を得るのではない。いわばグライダーのようなものだ。自力では飛び上がることはできない。

6 グライダーと飛行機は遠くから見ると、似ている。空を飛ぶのも同じで、グライダーが音もなく X に滑空しているさまは、飛行機よりもむしろ美しくらいだ。 C 、悲しいかな、自力で飛ぶことができない。

7 学校はグライダー人間の訓練所である。飛行機人間はつぐらない。グライダーの練習に、エンジンのついた飛行機などがまじっている^dはメイワクする。危険だ。学校では、ひっぱられるままに、どこへでもついて行く従順さが尊重される。勝手に飛び

上がったたりするのは規律違反。たちまちチェックされる。やがてそれぞれにグライダーらしくなって卒業する。

8 優等生はグライダーとして優秀なのである。飛べそうではないか、ひとつ飛んでみる、などと言われても困る。指導するものがあつてのグライダーである。

9 グライダーとしては一流である学生が、卒業間際になつて論文を書くことになる。これはこれまでの勉強といささか勝手が違う。何でも自由に自分の好きなことを書いてみよ、というのが論文である。グライダーは途方にくれる。突如としてこれまでとまるで違つたことを要求されても、できるわけがない。グライダーとして優秀な学生ほどあわてる。

10 そういう学生が教師のところへ「相談」にくる。ろくに自分の考えもなしにやつてきたつてしかたがないではないか。教師に手とり足とりしてもらつて書いても論文にはならない。そんなことを言つて突っぱねる教師がよいものなら、グライダー学生は、あの先生はろくに指導もしてくれない、と口をとがらしてその非を鳴らすのである。

11 そして面倒見のいい先生のところへかけ込み、あれを読め、これを見よと入れ知恵してもらい、めでたくグライダー論文を作成する。卒業論文はそういうのが大部分と言つてもカゴンではあるまい。

12 いわゆる成績のいい学生ほど、この論文に手こずるようだ。言われた通りのことをするのは得意だが、自分で考えてもてと言われるのは苦手である。長年のグライダー訓練ではいつもかならず曳いてくれるものがある。それになると、自力飛行の力を失つてしまうのかもしれない。

13 もちろん例外はあるけれども、一般に、学校教育を受けた期間が長ければ長いほど、自力飛翔しりょうの能力は低下する。グライダーでうまく飛べるのに、危ない飛行機になりたくないのは当たり前であるう。

14 こどもというのは実に創造的である。たいていのこどもは勞せずして詩人であり、小発明家である。ところが、学校で知識を与えられるにつれて、散文的になり、人まねがうまくなる。昔の芸術家が学校教育を警戒したのは、たんなる感情論ではなかつ

たと思われる。飛行機を作ろうとしているのに、グライダー学校にいつまでもグズグズしてはいけけないのははっきりしている。

15 いまでも、プロの棋士たちの間に、中学校までが義務教育になっているのがじゃまだとはつきり言う人がいる。いちばん頭の発達の速い時期に、学校でグライダー訓練なんかさせられてはものにならない、というのであるらしい。

16 人間には、グライダー能力と飛行機能力とがある。受動的に知識を得るのが前者、自分でものごとを発明、発見するのが後者である。両者はひとりの人間の中に同居している。グライダー能力をまったく欠いていては、基本的知識すら習得できない。何も知らないで、独力で飛ぼうとすれば、どんな事故になるかわからない。

17 しかし、現実には、グライダー能力が圧倒的で、飛行機能力はまるでなし、という優秀な人間がたくさんいることもたしかで、しかも、そういう人も「翔べる」という評価を受けているのである。

18 学校はグライダー人間をつくるには適しているが、飛行機人間を育てる努力はほんのすこししかしていない。学校教育が整備されてきたということは、ますますグライダー人間をふやす結果になった。お互いに似たようなグライダー人間になると、グライダーの欠点を忘れてしまう。知的、知的と言っていれば、翔んでいるように錯覚する。

19 われわれは、花を見て、枝葉を見ない。かりに枝葉は見ても、幹には目を向けない。まして根のことは考えようもしない。とかく花という結果のみに目をうばわれて、根幹に思い及ばない。

20 聞くところによると、植物は地上に見えている部分と地下にかくれた根とは形もほぼ同形でシンメトリーをなしているという。花が咲くのも地下の大きな組織があるからこそだ。

21 知識も人間という木を咲かせた花である。美しいからといって花だけを切ってきて、花瓶にさしておいても、すぐ散ってしまふ。花が自分のものになったのではないことはこれひとつ見てもわかる。

〔22〕明治以来、日本の知識人は欧米で咲いた花をせっせと取り入れてきた。中には根まわしをして、根ごと移そうとした試みもないではなかったが、多くは花の咲いている枝を切ってもってきたにすぎない。これではこちらで花を咲かせることは難しい。⁽³⁾ 翻訳文化が不毛であると言われなくてはならなかったわけである。

〔23〕根のことを考えるべきだった。それを怠っては自前の花を咲かせることは不可能である。もともと、これまでは、切り花をもってきた方が便利だったのかもしれない。それなら、グライダー人間の方が重宝である。命じられるままについて行きさえすれば知識人になった。

〔24〕指導者がいて、目標がはっきりしているところではグライダー能力が高く評価されるけれども、新しい文化の創造には飛行機能力が不可欠である。それを学校教育はむしろ抑圧してきた。急にそれをのばそうとすれば、さまざまな困難がともなう。

〔25〕他方、現代は情報の社会である。グライダー人間をすっかりやめてしまうわけにも行かない。それなら、グライダーにエンジンを搭載するにはどうしたらいいのか。学校も社会もそれを考える必要がある。

〔26〕グライダー專業では安心していられないのは、コンピューターという飛び抜けて優秀なグライダー能力のもち主があらわれたからである。自分で翔べない人間はコンピューターに仕事をうばわれる。

（外山滋比古『思考の整理学』）

※原文を一部改変した。

問(一) 二重傍線部①(e)のカタカナを漢字に直し、解答欄に直接書きなさい。解答番号は①が①⑥、②が②⑦、③が③⑧

①⑧、②⑧、③⑧

問(二) に入る語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は

①⑨

②⑨

③⑨

④⑨

⑤⑨

⑥⑨

⑦⑨

⑧⑨

⑨⑨

⑩⑨

⑪⑨

⑫⑨

⑬⑨

⑭⑨

⑮⑨

⑯⑨

⑰⑨

⑱⑨

⑲⑨

⑳⑨

㉑⑨

㉒⑨

㉓⑨

㉔⑨

㉕⑨

㉖⑨

㉗⑨

㉘⑨

㉙⑨

㉚⑨

㉛⑨

㉜⑨

㉝⑨

㉞⑨

㉟⑨

㊱⑨

㊲⑨

㊳⑨

㊴⑨

㊵⑨

㊶⑨

㊷⑨

㊸⑨

㊹⑨

㊺⑨

㊻⑨

㊼⑨

㊽⑨

㊾⑨

㊿⑨

㉑⑨

㉒⑨

㉓⑨

㉔⑨

㉕⑨

㉖⑨

㉗⑨

㉘⑨

㉙⑨

㉚⑨

㉛⑨

㉜⑨

㉝⑨

㉞⑨

㉟⑨

㊱⑨

㊲⑨

㊳⑨

㊴⑨

㊵⑨

㊶⑨

㊷⑨

㊸⑨

㊹⑨

㊺⑨

㊻⑨

㊼⑨

㊽⑨

㊾⑨

㊿⑨

㉑⑨

㉒⑨

㉓⑨

㉔⑨

㉕⑨

㉖⑨

㉗⑨

㉘⑨

㉙⑨

㉚⑨

㉛⑨

㉜⑨

㉝⑨

㉞⑨

㉟⑨

㊱⑨

㊲⑨

㊳⑨

㊴⑨

㊵⑨

㊶⑨

㊷⑨

㊸⑨

㊹⑨

㊺⑨

㊻⑨

㊼⑨

㊽⑨

㊾⑨

㊿⑨

㉑⑨

㉒⑨

㉓⑨

㉔⑨

㉕⑨

㉖⑨

㉗⑨

㉘⑨

㉙⑨

㉚⑨

㉛⑨

㉜⑨

㉝⑨

㉞⑨

㉟⑨

㊱⑨

㊲⑨

㊳⑨

㊴⑨

㊵⑨

㊶⑨

㊷⑨

㊸⑨

㊹⑨

㊺⑨

㊻⑨

㊼⑨

㊽⑨

㊾⑨

㊿⑨

㉑⑨

㉒⑨

㉓⑨

㉔⑨

㉕⑨

㉖⑨

㉗⑨

㉘⑨

㉙⑨

㉚⑨

㉛⑨

㉜⑨

㉝⑨

㉞⑨

㉟⑨

㊱⑨

㊲⑨

㊳⑨

㊴⑨

㊵⑨

㊶⑨

㊷⑨

㊸⑨

㊹⑨

㊺⑨

㊻⑨

㊼⑨

㊽⑨

㊾⑨

㊿⑨

㉑⑨

㉒⑨

㉓⑨

㉔⑨

㉕⑨

㉖⑨

㉗⑨

㉘⑨

㉙⑨

㉚⑨

㉛⑨

㉜⑨

㉝⑨

㉞⑨

㉟⑨

㊱⑨

㊲⑨

㊳⑨

㊴⑨

㊵⑨

㊶⑨

㊷⑨

㊸⑨

㊹⑨

㊺⑨

㊻⑨

㊼⑨

㊽⑨

㊾⑨

㊿⑨

㉑⑨

㉒⑨

㉓⑨

㉔⑨

㉕⑨

㉖⑨

㉗⑨

㉘⑨

㉙⑨

㉚⑨

㉛⑨

㉜⑨

㉝⑨

㉞⑨

㉟⑨

㊱⑨

㊲⑨

㊳⑨

㊴⑨

㊵⑨

㊶⑨

㊷⑨

㊸⑨

㊹⑨

㊺⑨

㊻⑨

㊼⑨

㊽⑨

㊾⑨

㊿⑨

㉑⑨

㉒⑨

㉓⑨

㉔⑨

㉕⑨

㉖⑨

㉗⑨

㉘⑨

㉙⑨

㉚⑨

㉛⑨

㉜⑨

㉝⑨

㉞⑨

㉟⑨

㊱⑨

㊲⑨

㊳⑨

㊴⑨

㊵⑨

㊶⑨

㊷⑨

㊸⑨

㊹⑨

㊺⑨

㊻⑨

㊼⑨

㊽⑨

㊾⑨

㊿⑨

㉑⑨

㉒⑨

㉓⑨

㉔⑨

㉕⑨

㉖⑨

㉗⑨

㉘⑨

㉙⑨

㉚⑨

㉛⑨

㉜⑨

㉝⑨

㉞⑨

㉟⑨

㊱⑨

㊲⑨

㊳⑨

㊴⑨

㊵⑨

㊶⑨

㊷⑨

㊸⑨

㊹⑨

㊺⑨

㊻⑨

㊼⑨

㊽⑨

㊾⑨

㊿⑨

問(四)

Y

に入る語として最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は

23

。

ア

エネルギー

イ

テーマ

ウ

アート

エ

シンボル

オ

ニュアンス

問(五)

次の文は、ある段落の末尾に入るが、その位置として最も適当なものを後の中から一つ選びなさい。解答番号は

24

。

* へたに自発力があるのは厄介である。

ア

2

イ

10

ウ

15

エ

23

オ

25

問(六)

傍線部(1)「学校はグライダー人間の訓練所である。飛行機人間はつくらない」とあるがどういうことか。「グライダー能力」

と「飛行機能力」の違いに触れながら、六十五字以上八十字以内で説明しなさい。解答番号は

25

問(七) 傍線部②「いわゆる成績のいい学生ほど、この論文に手こずるようだ」とあるが、どうして手こずるのか。説明として最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は 26。

ア これまで良い成績ばかりとっていたが、自分よりも優秀な学生にたくさん出会い、論文を書くことに自信を失うようになったから。

イ 卒業論文は専門性が非常に高いので、いい成績であったとしても、他の教科で学んだ内容はほとんど役に立たないから。

ウ 教師の指示に従順にしたがい教科書の内容をきちんと理解している学生が優秀であると評価されるが、そのような学生ほど、自分で考えるということが苦手であるから。

エ 論文について教師のところに相談にいくがろくに指導もしてくれないので、教師に対して不満を抱くとともに、どうしていいかわからないから。

オ 自分が優秀であると思っているので、論文を書くことを甘く考えて論文作成の準備をおろそかにする学生が多いから。

問(八) 傍線部(3)「翻訳文化が不毛であると言われなくてはならなかったわけである」とあるが、その理由の説明として最も適当

なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は 27。

ア 日本の知識人は欧米の知識の成果には注目するが、その成果をもたらず「根」の部分にまで思いを巡らす姿勢が乏しかったから。

イ 日本の知識人はせっせと欧米の知識を取り入れてきたが、重要なものばかり注目して、それ以外のものは無視してきたから。

ウ 日本には欧米にはない独自に生み出した知識や文化があるので、わざわざ外国のものを翻訳して紹介する必要はないから。

エ 現代は情報社会であり、新しい知識がどんどん生まれているので、いちいち日本語に翻訳しては、そのスピードに追いつけないから。

オ 欧米の知識の成果を「花」とすると、その成果を生み出す「根」の部分も紹介しなければならぬが、それは非常に困難な作業だから。

問(九) 次の各段落群が文章全体において果たしている役割の説明として適當でないものを次の中から一つ選びなさい。解答番号

は 28。

ア ① ～ ④ 段落では、日本社会における学校信仰について述べることで、学校教育の問題について論じるための導入部分となっている。

イ ⑤ ～ ⑧ 段落では、主題である学校教育に関してグライダーと飛行機にたとえて説明し、これまでのようなグライダー能力を養成することから、新しい文化の創造に必要な飛行機能力の養成をおこなうようになったことへの変化について述べている。

ウ ⑨ ～ ⑫ 段落では、卒業論文の作成を事例に、それまで「優秀」と評価されてきた学生が論文の作成に苦戦する様子などについて述べ、その原因である学校教育のありように疑問を示している。

エ ⑬ ～ ⑯ 段落では、グライダー能力と飛行機能力について説明するとともに、これまでの学校教育は結果としてグライダー人間の養成に重きを置いていたという筆者の主張を端的に述べている。

オ ⑰ ～ ⑳ 段落では、これまで論じられてきた内容を踏まえて、「花」の比喩を用いながら日本の知識人のあり方について議論を展開させている。

問(十) 筆者の意図を読者に伝えるための表現の工夫の説明として最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は

29

- ア 内容を正確に理解してもらうために、余計なたとえや事例は交えずに、事実のみを淡々と述べている。
- イ 文章にリズム感や余韻を持たせるために、体言止めや擬態語を頻繁に用いる工夫がなされている。
- ウ 読者の関心を引き寄せるために、様々な事例を交えるとともに、疑問文を多用することで、躍動感のある文章になっている。
- エ 筆者の主張をわかりやすく説明するために、比喩を活用するとともに、できるだけ短文を用いるという工夫がなされている。
- オ 主張に説得力を持たせるために、様々な事例を紹介するとともに、他人の文章を引用しながら文章を構成している。

問(十) 本文の読後感を話し合っている五人の高校生の発言を次に示す。このうち、本文の内容と合わない発言を一つ選びなさい。

解答番号は 30。

- ア これまで、学校の先生の指示に従って勉強すればよいと思っていたけれど、それだけじゃダメなんだね。
- イ 卒業論文は大変そうだな。自由に自分が好きなことを書けといわれても、どうしていいかわからないかも。
- ウ 確かに、幼いころはお絵描きや工作のとき、今よりも自由な発想があったような気がする。今はついお手本のまねをするようになってきたな。
- エ 知識を花にたとえるなら、成果である花だけを見るのではなく、その知識が生まれた背景についてもしっかり考えなければならぬ。
- オ これまでの学校教育ではグライダー能力を養成していたけれど、今後はそれはやめて、飛行機能力の養成をしなければならぬ。

〔前期〕 一般選抜試験問題（2月1日）

国語 解答用紙

座席番号

キ
リ
ト
リ

1

<div> <div>13</div> <div> <div>35</div> <div>20</div> <div>14</div> </div> </div>			9	5	1
			10	6	2
			11	7	3
		10			
	15		12	8	4

11

26	25	70	50	30	10	19	24	21	16									
										27	65	18	23	22	17			
																28	20	20